

R01 学校教育自己診断 分析

「学校へ行くのが楽しい」はほぼ横ばいであるが、「授業がわかりやすい」が昨年度より6ポイントも下降している。「わかりやすい」の定義があいまいではあるが、主体的・対話的で深い学びが要求されている今、相応の工夫がなされていないことが生徒にとっては「わかりにくい」状況になるのだと考えられる。生徒の主体的・対話的な取り組みを進めるような授業改善に取り組んでいく必要がある。

「学校行事、部活動に対する評価」が昨年比で2ポイント下回っている。行事については生徒のニーズの変化に対応していくことが望まれる。部活動については、部活動の在り方の指針を受けて活動時間に制限を設けたことが少なからず影響しているように思われる

「学習環境が整っている」が昨年から横ばい状態であるが学年別にみると1年生 66.7%、2年生 70.9%、3年生 73.7% である。記述欄では授業中うるさい生徒がいるという声が多く聞かれ、さらに設備面でトイレの改修や電子黒板等の ICT 機器を要求する声もある。

「挨拶をする」「遅刻をしないように心がける」「学校のルールは守る」はいずれも昨年に比べてやや下降したが、つねに90%以上の高い水準を保っている。学校全体の規範意識は高まっている。一方で、生徒の挨拶に対して返すことをしない先生の存在が気になるところがある。